

## 国土審議会第18回北海道開発分科会

平成28年3月10日

【山上企画官】 それでは、定刻になりましたので、ただいまから国土審議会第18回北海道開発分科会を開会いたします。

本日は、皆様お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。当分科会の事務局を担当いたします、国土交通省北海道局総務課の山上でございます。以降、座って進めさせていただきます。

本日現在、本分科会は、国土審議会委員4名、特別委員15名の計19名で構成されております。本日は国土審議会令第5条第1項及び第3項の規定に基づく定足数を満たしておりますことをご報告申し上げます。

本日の議事につきましては、国土審議会運営規則第5条におきまして、会議及び議事録を公開することとされておりますので、マスコミを含め、一般の方々に傍聴いただいております。また、議事録につきましては、原則として発言者氏名入りで公開することとされておりますので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

続きまして、ご発言の際にご使用いただきます卓上スタンドマイクの使用方法についてご説明いたします。お手元のスタンドマイクのボタンを押していただきますと、赤いランプが点灯いたします。ランプが点灯している状態がスイッチが入っている状態となります。恐れ入りますが、ご発言の都度、スイッチのオンとオフを切り替えてご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

続きまして、委員紹介でございます。本日、ご出席の委員及び特別委員の皆様におきましては、お手元に配付しております配席図をもちまして紹介に代えさせていただきますと存じます。

なお、中村裕之委員におかれましては、若干遅れて到着されるとの連絡を受けております。

稲津久委員、逢坂誠二委員、橋本聖子委員、宮脇淳委員におかれましては、途中でご退席とお伺いしております。お時間の許す限り、よろしく願いいたします。

高橋はるみ委員におかれましては、公務のご都合により、本日は、代理といたしまして、東京事務所長の岡田恭一様にご出席になっておられます。また、秋元克広委員におかれま

しても、公務のご都合により、本日は、代理といたしまして、副市長の町田隆敏様にご出席になられています。

徳永エリ委員、家田仁委員、佐藤俊彰委員におかれましては、所用により本日はご欠席との連絡を受けております。

それでは次に、国土交通省側の出席者について紹介申し上げます。土井国土交通副大臣でございます。また、事務局の幹部に異動がございましたので、紹介いたします。審議官の對馬でございます。

【對馬官房審議官】 どうぞよろしくお願ひいたします。

【山上企画官】 その他、北海道開発局長、審議官、各課室長等が出席いたしております。岡部北海道局長につきましては、官邸への説明案件がございまして、遅れて到着いたします。

ここで、土井国土交通副大臣から、ご挨拶がございます。

【土井国土交通副大臣】 先生方におかれましては、大変ご苦勞さまでございます。そして、本日は大変お忙しい中をご出席していただきまして、ありがとうございます。心からお礼を申し上げたいと存じます。

本日の分科会では、前回1月20日の分科会におきまして、先生方にお示しをさせていただきました、計画部会報告に対する先生方からのご意見や、パブコメを行った結果などを踏まえ、新たな北海道総合開発計画の案をお諮りする次第でございます。

今回の計画案では、2050年を見据え、「世界の北海道」を目指すことといたしております。人口減少などの課題もございますが、今月26日に迫った北海道新幹線の開業などの好機を活かしまして、食や観光といった強みを伸ばすことにより、北海道が我が国の発展に貢献していくため、関係府省ともに密接に連携しながら、新たな計画の推進をしてみたいと思っております。

本日は、計画の取りまとめに向け、最終の北海道開発分科会となりますので、先生方におかれましては、計画の策定・推進に関し、忌憚のないご意見を賜りますように、よろしくお願いを申し上げたいと存じます。

結びといたしまして、国土交通省としては、できるだけ速やかに新たな計画を、閣議決定をできるよう進めてまいります。先生方におかれましては、引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますように心からお願ひを申し上げ、ご挨拶とさせていただきますと存じます。

どうぞよろしくお願ひをいたします。ありがとうございます。

【山上企画官】 ありがとうございます。

なお、土井国土交通副大臣は、公務のためご退席になります。

【土井国土交通副大臣】 よろしく願いいたします。ありがとうございます。

【山上企画官】 マスコミ関係者、傍聴者の方々によるカメラ撮影は、ここまでとさせていただきます。これ以降の会議進行につきましては、奥野分科会長にお願いしたいと存じますので、よろしく願いいたします。

【奥野分科会長】 年度末の大変お忙しいところを、また、遠路をご出席いただいております。ありがとうございます。

それでは、議事に従って進めてまいります。

(1)「北海道総合開発計画(案)について」であります。本日は、北海道総合開発計画(案)の取りまとめを予定しております。前回の分科会でのご議論、また、その後に行われました意見募集等を踏まえまして、計画(案)を事務局に作成していただいておりますので、まず、その説明をお願いいたします。

【鎌田参事官】 参事官でございます。

では、お手元の資料のうち、資料2、3、4及び5につきまして、私から説明をさせていただきます。

まず、資料2でございます。

最初に、前回の分科会の翌日1月21日から2月10日まで、パブリックコメント、意見募集を行いました。その結果、22名の方から34件のご意見をいただいております。いただいたご意見の内容及び分類は、本文の見出し等によって分類をしております。内容についてご説明をさせていただきます。

1ページでは、今回の新しい北海道型地域構造についてのご意見を数多くいただいております。少し説明がわかりにくいものがございましたので、その点につきましては、今後計画を進めていく上で、丁寧に説明をさせていただくというような文言で、ご意見に対する考え方というものを載せてございます。

2ページですけれども、広域交通ネットワークを早く整備してほしいといったご意見もございました。

3ページに朱書きしてあるところがございますけれども、ここは本文への修文に反映させた箇所でございます。14番及び15番では、北海道の特に地方部においては、ICTを活用といわれても、光ファイバーも整備されていないところがあるというご意見がござ

いました。その意見を反映させるということで、「交通ネットワーク」に加えまして、「交通・情報ネットワーク」、また、最後には、「地域の情報通信環境の整備を推進する」という文言を加える修文の案を考えてございます。

4 ページですが、観光に関するご意見も数多くいただいております。18 番でございますけれども、「訪日外国人旅行者 2000 万人時代の到来」という表現があったのですが、ちょうどパブリックコメントを行っているときに、昨年の訪日外国人が 1974 万人という報道がございました。それを受けますと 2000 万人は、ほぼ到達しているということで、表現を変えてはどうかとのご意見をいただきまして、「2000 万人の達成が視野に入ってきており」という修文の案を用意してございます。

その他、サイクリング等に関するご意見を多くいただいております。

5 ページでは、人流・物流に関するご意見を 3 点いただいております。

6 ページでは、安全・安心の話が出ております。

全体として、いただいた意見に対して、できるだけ丁寧に考え方を記述させていただくということで、本日、ご審議をいただき、この結果につきまして、ホームページに掲載するという事を考えております。

資料 3 です。今、ご説明いたしましたパブリックコメント、それから、前回まで北海道開発分科会でいただいたご意見、関係省庁との調整の中で 1 月 20 日にご説明いたしました計画の素案と今回の修文を記載し、どこを直したかという部分にアンダーラインを引いてございます。

まず、1 ページの修文の案でございますけれども、これは現在実施中の第 7 期計画の進捗状況に該当する箇所でございます。

道東道が開通したということもありますが、まだミッシングリンク、未整備区間が存在しているということに加えまして、第 7 期計画のうちに、昨年来、色々新聞等でも報道されておりますけれども、JR 北海道の厳しい経営状況の中で、列車が減便されたり、あるいは駅が廃止、無人化されたこともあって、地域の公共交通の確保、持続可能性が課題となっていることを、現状のところに加えさせていただいております。

それから 2 ページ、3 ページは、先ほどパブリックコメントのところでいただいた意見を反映させたものです。3 ページの情報に係る部分につきましては、前回の分科会で佐藤俊彰委員から同じようなご意見をいただいております。

4 ページでございます。こちらは、先ほどの地域の公共交通に関係したところでござい

ます。該当するのが、基礎圏域の地方の市街部、数千人規模程度のところをイメージしていただければよろしいのではないかと思います。今回は、一般的な表現でございましたけれども、1 ページで申し上げたような課題が明らかとなりましたので、「地域の実情に応じ、鉄道やバスを始めとする公共交通を、持続可能なものにしていくための在り方の検討や取組を推進する」ということで、少し書き方を詳しくしてございます。

同じく4 ページでございます。これはアイヌ文化の振興等に該当する部分でございます。原文に加えまして、これから白老を中心として整備を進めます「民族共生の象徴となる空間」につきまして、「年間来場者数は100万人を目指す」という点。さらに、ここを中心とした、全道的なネットワークを構築する、他の地域との連携ということを意識した表現を加えてございます。

5 ページです。新計画の柱が「食」と「観光」ということですので、観光について少し前向きに書いてはどうかというご意見をいただきました。「観光立国の実現に向けて更なる高み」、これは154万人をさらに増やす、あるいは訪日外国人旅行者の1割をさらに高めていくという意味を込めております。そして「北海道が果たす役割をますます高めていく必要がある」ということで、少し前向きな表現に修文の案を考えてございます。

6 ページでございます。こちらも観光に該当する部分でございます。魅力ある観光地域づくりということでございますが、これは道央圏に集中している観光客を、道東や道北など、全道に広げていこうという施策が書いてあるところでございますけれども、昨今、色々新聞等にも書かれておりますが、複数空港の一体的な運営の推進等により、さらに新千歳だけではなくて、地方空港の活性化を図っていくというような意味合いを加えてございます。

同じく6 ページでございますけれども、「外国人旅行者の受入環境の整備」という項目になります。ここでは、北海道に来る方の9割近くが、空港を利用して来られるということで、そこを少し強めに書いてはどうかというご意見をいただいて、「特に北海道への来訪者は、大半が航空機により来道することから、空港を始めとするゲートウェイ機能の強化等を図り」という文言をつけ加えてございます。

7 ページ。文章としては続いているところでございますけれども、ここでは、空港やクルーズ船などの交通手段について書いてございます。空港の部分で、もともとは道内空港の有効活用、利用環境の改善ということで、もっと地方空港の利用を活性化させようということが書いてございましたけれども、加えて、戦略的な空港間の連携を推進していくと

ということで、受入環境の整備をしていくという表現を加えてございます。

7ページです。こちらは前回の分科会で、委員の数名の方からご意見をいただいております。札幌市が中心となって、冬季オリンピック・パラリンピックの誘致を今後、進めようという動きがございます。文言としてオリンピック・パラリンピックと書けないまでも、そういったことが読めるような表現を書き込めないだろうかというご意見をいただきました。それを反映いたしまして、「国際的な大規模スポーツ大会の誘致」という文言を修正案として考えてまいりました。

以上が前回の案からの修正箇所でございます。

計画（案）全文につきましては、資料4でございます。こちらは今、説明しました修正案を反映したものが、目次を除いて、全体で51ページになってございます。

資料5を説明させていただきます。こちらは、本日、北海道からご出席をいただいておりますけれども、北海道開発法に基づいて地方公共団体が意見を提出することができ、2月26日付で北海道知事から意見が提出されております。それについてご紹介いたします。

1ページが北海道からいただいている意見でございます。上段は、現在、北海道が進めている北海道の新しい総合計画について書かれてございます。記の下に、策定に関する事項ということで、「新たな北海道の総合開発計画については、閣議決定し、実効ある推進を図ること」というご意見をいただいております。

それから、推進に関する事項として、北海道と国との連携をもとに、5点の事項がありますけれども、こういったことを重点的に展開することというご意見をいただいております。

丸の二つ目でございますけれども、北海道では、道内を6圏域に分けて、「連携地域別政策展開方針」というものが策定されておりますけれども、これらについて、支援をすること。

最後の丸では、「重層的なプラットフォームの形成に向けた施策の推進」、また「計画のフォローアップに北海道が参画すること」というご意見をいただいております。

いずれの内容につきましても、これまで計画部会あるいは北海道開発分科会に北海道からもご出席いただいておりますので、整合を図っていかうというご意見と受けとめてございます。

2ページ及び3ページは、年度内に北海道で策定されると伺っておりますけれども、「新しい総合計画における政策展開の基本方向」につきまして、資料として別紙で添付されて

おります。

事務局の説明は以上でございます。

【奥野分科会長】 どうもありがとうございました。それから、資料6でございますが、前回の分科会で、計画の実施推進に当たって、この分科会として留意事項をつくるということ。その内容については、私に一任するという決定をいただいておりますので、それについて説明申し上げます。

資料6をごらんください。本文を読ませていただきます。

国土審議会北海道開発分科会においては、昨年1月の国土交通大臣からの諮問を受け、新たな北海道総合開発計画の策定に向けた調査審議を進め、今般、案文をまとめたところであるが、新たな計画の実施に当たり、国として以下の諸点に留意し、イニシアチブを発揮することを期待する。

1. 新たな計画について、北海道民へのわかりやすい広報活動を積極的に展開し、北海道民が一丸となって新たな計画の実現に向けて取り組めるようにすること。

また、新たな計画で提案している「基礎圏域」について、住民、地方公共団体等の理解の促進を図ること。

2. 地域づくりに取り組む人々の組織化や人材育成を進めることが喫緊の課題であり、北海道価値創造パートナーシップを始めとする「人づくり」に向けた取組を積極的に推進すること。

3. 新たな計画の推進状況を確実に点検する体制を北海道開発分科会の活用などによって構築すること。その際には、北海道民を始めとする関係者が連携して新たな計画の実現に向けた取組を進められるよう、数値目標の共有を図るとともに、推進状況の点検に際しては、その数値目標を踏まえること。

以上でございます。下に数値目標の代表的な例を書いておりますが、これは現時点で考えるものを例として挙げているということで、これについては推進体制ができた段階で、また色々ご議論いただいでいくことになろうかと思っております。

説明は以上でございます。最初に申し上げましたように、本日は計画案の取りまとめを予定しております。答申に当たりまして、計画案、留意事項等についてご意見をいただければと思います。

毎回、時間を限って恐縮でございますが、お一人4分ぐらいを目途にお願いできればと思います。逢坂委員お願いします。

【逢坂委員】 まず今回、パブリックコメントを実施したということで、その結果を踏まえて修文がされたということ、これを評価したいと思います。本来当たり前のことではありますけれども、各省を見ますと、パブコメの内容を公開していないところもある中で、パブコメをしっかり公開して、それにより修文をしたという姿勢について、評価をしたいと思います。

2点目ですが、J R北海道の経営の厳しさに言及し、それを課題として明記したことは、私は非常に大きいと思っています。これからの北海道を考える上で、J R北海道をどうしていくかということは、非常に大きな課題になると思っておりますので、この点も評価をしたい。これから北海道にとっては非常に重要な課題になっていくと思っております。

もう一つですが、空港の一体運営等ということが新たに盛り込まれています。私は空港の一体運営はメリットが非常に大きいと思いますが、一体運営に民営化というようなことが入るとするならば、そこに必ず収支採算性という尺度が入ってこようかと思えます。そうなったときに、収支採算に合わないところをどうするかといった議論が将来惹起されるおそれがあります。北海道は、広大な土地を抱えておりますので、今回のこの空港の一体運営等については、メリットを活かすと同時に、デメリットをどう克服するかという観点が必要ではないかと思えます。

先ほどの留意事項の3番目にも関連するわけですが、これからこの計画ができ上がって、具体的にどう実現していくか、どう実行していくか。このことが非常に大きいと思えますので、具体的な事項を並べ、タイムスケジュールを明確にして、ここにある数値目標も当然でありますけれども、そのタイムスケジュールといったものも、あらかじめしっかり備えておくことが大事ではないかと思えます。

最後です。景気、経済の状況については、ここでは議論はいたしませんけれども、地域を見ておきますと、やはり必ずしも地域にお金が回っていないという声を多く聞きます。そういった観点からいたしますと、今回のこの計画を実施、実行する上で、中小事業者、地場の事業者配慮をした様々な入札などの取組をされるということが、北海道の各地にとって非常に有益なことではないかと思えます。

【奥野分科会長】 どうもありがとうございました。事務局からのリプライについては、後でまとめてお願いいたしますけれども、個別具体の質問が出た場合は、その都度お願いすることがありますので、事務局よろしく願います。

続いて宮脇委員をお願いします。



【宮脇委員】 それでは、2点だけ。これは修正をお願いするといった話ではございません。

資料3の2ページ、観光についてですが、今、逢坂委員からご指摘があった点と若干重複するのですが、北海道において観光客の入り込みは、増加しているのですけれども、必ずしも地域所得というところに密接に結びついてきていないという問題があって、ハード面に加えて、地域の努力ということももちろん必要ですけれども、ソフト面に対しての配慮というのでしょうか、色々な政策展開が必要ではないかと思っております。

さらに4ページです。若干、今の点と関係するのですが、この鉄道やバスをはじめとする公共交通を持続可能なものにと、今、JR北海道についてはご指摘があったわけです。バスについては、道内で非常に重要な公共交通としての役割を果たしているわけですが、必ずしも観光客の増加との間で、持続性がある公共交通の役割をバスが果たし続けられるかどうかというところは、一つの課題になっていると思います。

というのは、台数の問題や、運行の安全の問題など、そういったソフト面のところを、これも同じですけれども、公共交通としての持続可能性と観光としての役割の充実というところの両立といった視点も視野に入れておく必要があると思っております。

4ページのアイヌについてですが、これは先ほど奥野分科会長が言われた、数値目標のところと関係をするわけですが、100万人を目指すというところですが、これは当然、今の政府のPDCAサイクル、こういったものと密接に関係をして、これから動かしていくということだと思います。こういう目標値については、ご承知のように色々な性格づけがあって、厳格に執行管理をするためのものや、そもそも期待値的なものなど、色々なものがあると思います。先ほど、北海道からの意見書の1ページの一番下にありましたように、計画のフォローアップに関して、北海道といったところもきちんと参画をする中で、国の役割や責任と、北海道の役割を、明確に議論していくということで、目標値だけが先行するような形ではなくて、これを具体的に実現していくための事業体系をきちんと考えていっていただきたいと思っております。以上です。

【奥野分科会長】 ありがとうございます。続いて、石原委員お願いします。

【石原委員】 前回の分科会でご報告いただいた内容の変更点につきまして、ご説明ありがとうございます。パブリックコメントに寄せられた意見を適切に反映いただいて、非常に全体としてよく仕上げられたものになっていると思います。その上でいくつかコメントさせていただきます。

最新の国勢調査によりますと、北海道は直近5年で人口が12万人減少と、従来とは社会的、経済的な状況が根本的に違っています。そういう状況であるからこそ、選択と集中が必要であると思います。北海道の強みをとことん追求して、集中的に対応していく、今は決断する、そういう時期かと思います。

まず、インバウンドでございますけれども、日本全体で非常に好調な状況であり、日本に訪問される外国客の1割が北海道を訪問するというデータがあります。北海道の強みである豊かな自然やおいしい食材、さらに根室のバードウォッチングのような滞在型・体験型のツアーを強化していくなど、戦略的な誘致策で問題を解決していただければと思います。

加えて、新千歳空港以外の道内各空港のハード面あるいはソフト面での機能強化、これは非常に大事だと思いますし、今回の新幹線の開業による本州からの客の誘致という点で、是非道内での観光客の滞留を促進して、300万人という来道目標値の更なる上積みを目指していただきたいと思います。

先日、知事が表明をされた道内6空港の一括民営化については、期待をしているところでございます。一括運営の下、各空港が連動した観光コースの設定等により、観光客がさらに増えることを期待申し上げます。

最後でございますけれども、産学官民金連携による地域のプラットフォームの形成と運営について、より知恵を絞る必要があると思います。地域のことを一番良く知っておられるのは地域の方々でありますし、その地域の担い手を誰に委ねるかが、大きな課題になっているという話も聞きます。そういった意味で、私ども企業サイドといたしましても、地域を支える担い手の一つとして、企業のOBを派遣する等、経済界としても何らかの貢献ができないかといったことも考えているところでございます。

いずれにいたしましても、この開発計画の、まずは実行を通しまして、北海道が真に世界の北海道になることを期待したいと思っております。私からは以上でございます。

**【奥野分科会長】** ありがとうございます。稲津委員お願いします。

**【稲津委員】** まず、これまでの議論を経た上で、さらにこの若干の変更点、修文を加えていただいて、非常にバランスの良い計画になったのではないかと考えております。

この変更点のところが、非常に特徴的ですが、公共の交通機関について、いくつか追加になっておりまして、これは適切と思っております。

これまでの7期計画までのところで考えていくと、決定的な違いというのは、北海道の

意見の中にも書いていますけれども、一つは人口減少、高齢化。もう一つは海外の成長力を取り込む。食や観光という関連産業の振興をうたっているのですけれども、ここに重きを置いていったときに、どうしても交通インフラのことについて、やはり触れていかなければいけないだろうと。そういう意味で変更後の追加、修文についても、非常に適切かと思っています。

とりわけ、もう一度考えていかなければいけないのは、私もなるほどと思ったのですが、J R北海道について触れているところです。このJ R北海道の厳しい経営状況や、今後の列車運行の動向等について検討していることについても、ここで触れられていて、問題点を浮き彫りにしていただきました。

このところを考えていったときに、J R北海道のこれからの経営、それから北海道庁や近隣自治体の方々にも色々お考えいただかなければいけないと思うのですが、今後のJ R北海道に対する支援も避けて通ることはできないだろうと、この文章を置いていただいたことによって、そういう課題が見えてくるとしています。私としては非常に良いものができたと思っております、これで是非完成ということをお願いしたいと思います。以上です。

**【奥野分科会長】** ありがとうございます。続いて中村委員をお願いします。

**【中村委員】** パブリックコメント等、前回の北海道開発分科会の中での、オリンピック・パラリンピックとは言わないまでも、スポーツの世界的な大会の誘致ですとか、情報通信ネットワークの充実など、そうした議論を踏まえての修文をしていただいたことに、感謝を申し上げる次第でございます。

計画としては、良いものができていると思いますので、計画に従って、きちんと推進をしていくことが大切だと思っております。全国の地域計画の中でも、私も申し上げておりますし、前回の分科会でも前田委員から7兆円という数字が出たわけでありまして、アウトプットの目標ももちろん大事であります、国としては、やはりインプットの目標も持っているべきだろう。計画的な整備や維持管理等をやっていくべきだと私は思っております、北海道だけの問題ではもちろんございません。

全人代を見ている、年34兆円の交通網の整備に対する投資を行う、というような記述もございまして、諸外国の例を見ても、国としての整備計画というものを予算面でも計画的にやっているようでありまして、そうしたことを本計画ということではなくて、我が国としてやっていくべきだということを感じているということをお願いして、意見とさ

せていただきたいと思います。ありがとうございます。

【奥野分科会長】 ありがとうございます。次にご発言がございましたら挙手をお願いいたします。橋本委員お願いします。

【橋本（聖）委員】 橋本聖子でございます。奥野会長をはじめ、分科会の皆様方に取りまとめに向かって、ご努力をいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。

今、中村委員からオリンピック・パラリンピックに関してのご意見がありました。前回と変わったところは、資料3の7ページ、「国際的な大規模スポーツ大会の誘致」ということを入れていただいたということを実にありがたいと思います。

ただ、できましたら、もうこれは変えられないと思いますが、是非認識の中に入れていただきたいのは、北海道は、今、積極的に冬季オリンピック・パラリンピックの誘致に手を挙げようとしています。これを支援する観点から「冬季オリンピック・パラリンピック大会等の国際的な大規模スポーツ大会の誘致」というような意識の中でもっと踏み込んで対応していただければと思います。

というのは、もうご存じだと思いますが、一昨年、「アジェンダ2020」というものがIOCで採択されまして、非常に広域的な地域において、オリンピック・パラリンピックの開催が可能になりました。

今回、東京オリンピック・パラリンピック2020もそうなのですが、名称は「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会」ではありますが、大会の会場は東京だけではなく、近隣の千葉、埼玉、神奈川、静岡というところにも大会会場をお願いして、広域的にオリンピック・パラリンピックを成功に向けていくということになりました。今までよりもさらに既存の施設やレガシーをどのように残していくかということで、広域的にその地域のか、文化力をお借りしようということも、これからのオリンピック・パラリンピックのテーマになっています。

オリンピック・パラリンピックの日本国内への誘致は、まず日本国内の地域がやりたいという手を挙げ、その上でJOCがその地域からプレゼンをしていただいて、JOCが誘致しようとする地域を決め、そしてIOCに立候補の宣言をする。次に、どのようにフォロー、招致を勝ち取るためにどうするかというのは、国の働きになっていきます。したがって、まずは地域がオリンピック・パラリンピックの誘致にしっかりと手を挙げるという意欲がなければ、IOCに対してJOCも立候補の意思を表明することができないという

仕組みになっていることに留意しなければなりません。

「アジェンダ2020」に基づき、今後、広域な地域において、力を結集して立候補することができるということになった場合は、例えば「東北オリンピック・パラリンピック」ということもありますし、あるいは「北陸オリンピック・パラリンピック」でしたり、幾つかの地域が一体となり、既存の施設を利用して、力を合わせて立候補するということになると、非常に大きな力になる可能性があります。

オリンピック・パラリンピックの誘致のために世界に向かっていく前に、国内の誘致活動競争があるのだということを、是非意識の中に入れていただかないと、北海道への冬季オリンピック・パラリンピックの誘致は、非常に難しいものになるのではないかと考えています。

【奥野分科会長】       ありがとうございます。橋本委員をお願いします。

【橋本（哲）委員】     今回の計画の中で「世界の北海道」という考え方、新しいコンセプトが示されていますので、それをいかに実現していくかという観点で二、三、申し上げたいと思います。

一つは、今後は、オール北海道。北海道という単位での取組を通じて、具体的なプロジェクトを生み出していく、そういう点がさらに必要になってくるのではないかと考えております。

ご案内のとおり、今は国家の間の競争だけではなく、メガリージョンといいますか、広域的な都市、地域経済圏間での競争。いかに国際的なハブになるような機能をつくるかということも、非常に求められているわけでありまして、そのためにもオール北海道が連携した取組が、ますます求められているのではないかと考えております。

国、北海道、市町村や民間が具体的な目標、テーマを共有して、役割分担を決めて、プロジェクトに落とし込んでいくという動きを、今後、進めることが、計画実現の鍵の一つではないかと思えます。先ほど来、議論が出ております、道内空港の一体的な運営というものも、まさにその代表的な例ではないかと考えております。

2点目、産業面では新しいことに挑戦できる仕掛け。R&D機能や企画力をいかに強めるかということが、まさにポイントだと思います。食、農業、観光についても、世界の知的メッカを目指していくということであるといたしますと、ビジット北海道を超えてインベスト北海道。海外からの投資も促進されて、国内外のノウハウを融合していく。新しい産業価値につなげていく。さらに将来的には、北海道のモデルを海外に展開して、その成

果を還元していくことで、国内が一体になったハイブリッドな産業を、むしろ北海道から生み出していくというような視点が必要になるのではないかと考えております。

最後、3点目。世界での存在感を発揮するという事を考えますと、北海道の文化的なアイデンティティーというものも確立をしていくということ。それを観光や農業といった、産業と結び合わせ、かけ合わせるということも重要ではないかと思えます。

ご案内のとおり、日本の観光も二、三泊の買い物ツアーを超えて、日本の産業、生活、文化を前提にしたような質の高いものに大きく変わりつつあるわけでごさいます、北海道においても、北海道とは何かということ自ら明確にして、これは近代化モデルかもしれないし、縄文・北方文化かもしれない。そういうものをアピールしながら、これをベースに骨太のブランド、あるいは観光につなげていくという、そういうソフトを重視したような取組が非常に重要ではないかと考えております。以上です。

【奥野分科会長】 ありがとうございます。佐藤委員お願いします。

【佐藤（信）委員】 計画としては、こういうことだろうと、そう思っています。

3点ほど、具体的に事務局にお願いみたいな形になるかもしれません。分科会長の留意事項をどう変えるかという議論ではなくて、特に注意してほしいことを3点ほど申し上げたいと思います。

1点目は、プラットフォームをつくるのは、大変良いことだと思っています。いつ行るか、どういう形でつくっていくかということは、やればできる話ですので、急いでやってほしい。それが一つ。

2点目は、具体的な、数値目標に書いてありますが、いつごろまでに何をするのかと、そうしたプラットフォーム等のもとで議論しながら、できるだけ早めに、目標を立てる。バリエブルであっていいのです。いつ頃からいつ頃ぐらいというようなことでいいのですけれども、そうした目標を立てて、管理も含めて、みんなで計画を考え、それを繰り返していけば良いと考えます。

そして国の予算が必要なら、その分を取ってくるのだと、そこが大事な部分だろう。予算なども国は国、道はもちろん道、市町村は市町村へ。そして民間の皆様はどう協力していただくか。

特にJR北海道が多少問題になっているけれども、公共交通の確保なども含めて、PFIは色々な運営を官から民に、公共から民間に移すことだが、これは逆もPFIだと私は思っていて、お互いに協働しながら、どうやって物事が成立していくか、運営していくこ

とができるかと、そんな観点から目標を持ちながら、具体的に考えようというのが二点目。

そこでどれだけのものが予算も含めて必要なのだと。国は国、道は道、金融機関は金融機関で、それぞれ頼めるように、具体的な計画を持っていく。

3点目は、世界の北海道ということだが、人口と経済はデンマークと大体同じぐらいですね。経済力は一人当たりでいえば、向こうが少し大きいですがけれども。仮にそこへ並ぼうとすると、何が違うのだろう、何が足りないのだろう。北海道が特別でこれだけは、というようなことをもっと発信する。それにはそういう前提があつて、国の制度の中で直さなければいけないようなことがあれば、まず北海道から直していくというようなことも含めて提案をする。

そうしたことを、これは事務局の仕事になるのだろうと思いますけれども、実務的な面も含めて、是非具体化して行ってほしい。以上3点だけお願いをしておきます。

【奥野分科会長】 ありがとうございます。続いてございましたら、どうぞご発言ください。垣内委員お願いします。

【垣内委員】 この計画案を拝見させていただきまして、客観的なデータに基づき、きちんとした課題が抽出され、それに伴って、バランスの取れた施策が盛り込まれているという点を高く評価したいと考えております。

その上で、2点ほどコメントをさせていただきます。修文をお願いするものではございません。

資料6でございますけれども、こちらに留意事項というのが3点ございまして、その後が数値目標になっております。このうちの2番目のところです。「地域づくりに取り組む人々」、「人づくり」に向けた取組を積極的に推進する」ということ。人づくりこそが、「人こそが資源である」ということをきちんと報告書の中に盛り込んだ上で、この留意事項を出していただいている点を非常に高く評価したいと思います。

と申しますのも、2点目と関係するところですがけれども、この数値目標の中の代表的な例の中に、「民族共生の象徴となる空間」、アイヌ文化のナショナルセンターと報告書には書かれることになるのでしょうか、こちらについて、数値目標を掲げられたという点について、ちょっとコメントをさせていただきたいと思います。

年間入場者数100万人という数値目標を、どのように捉えるのかという考え方もあろうかと思いますが、私としては、期待値として、積極的に打ち出したという姿勢は評価したいと思います。アイヌ文化も、日本の文化の中でも重要な資産でありますし、世

界の北海道という観点からも、北海道の多様な魅力を形成する一つの重要な要素であろうと思います。それをきちんと打ち出したという点は、大変素晴らしいものであると思います。すけれども、先ほど宮脇委員からもお話がありましたとおり、これが執行管理のための数字になるということであれば、非常に残念なことになるのではないかと思います。

一般的に、従来型の文化的な空間、あるいはミュージアム的な施設でということであると、非常に要求度の高い数字であろうと思われま。これをあえて掲げた理由は、報告書のほかに書かれておりますけれども、全道的かつ戦略的な交通・情報ネットワークに乗せて、DMOや様々な活動と密接に連携をしながら、北海道の魅力、イメージを高めていくために、これを最大限使っていくという視点も含まれているからであろうと理解しております。

従いまして、従来型の、その空間だけで完結するのではなくて、様々な活動とうまく連携を取りながら、積極的に発信していくという視点からの期待値であると関係者の方々に十分にご理解いただけると、お互いにwin-winな関係が築かれるのではないかと思います。これが1点目です。

2点目は、同じく修文に書かれているところですが、**「アイヌの伝統的工芸品産業の振興等」**があります。この点もはっきりと明確に書かれたことを私は、評価したいと思いますけれども、この伝統的な産業というのは、どうしても労働・時間集約的でコストが高くなって、なかなかクオリティーだけで産業として成り立っていくというような状況にはないというのが実態であります。これに関しましても、このアイヌの伝産工業だけを見るのではなくて、報告書の中に、他のところにたくさん触れられているソーシャルビジネスやコミュニティービジネスなどの様々な価値創造の活動と、密接に結びつけていくことによって、稼ぐ力に繋げていくという姿勢で臨んでいただければと思っております。

以上、期待を込めまして、2点お話しさせていただきました。ありがとうございます。

**【奥野分科会長】** ありがとうございます。続いてご発言がございましたら、お願いいたします。よろしゅうございますか。それではこの計画案についての議論は以上とさせていただきます。皆さんから大変貴重なご意見、ご発言をいただきました。

事務局から統括してリプライをお願いできますでしょうか。

**【鎌田参事官】** 事務局からコメントさせていただきます。

まず、先生方のご意見の中で多かったのは、実施する段階で留意事項とも関係がございますけれども、目標をさらに追加していくという話や、タイムスケジュールをきちんと持



ってというようなご意見をいただいておりますので、この留意事項にありますとおり、事務局といたしましても、事務局だけでやることではなくて、第三者の方に入っていただくような場をつくりながら、そこで目標設定なりフォローアップしていく数値を決めながら、この計画の推進に向かっていきたいと思っております。

本日、出席いただいている北海道や札幌市、経済団体の方々とも目標等を共有しながら、進んでいけるように取り組んでいきたいと考えてございます。

もう1点といたしまして、外国人観光客等が増えても、なかなか地域にお金が回らないというご意見が何人かの先生方からいただきました。こちらについては、私どもの耳にも入っております、例えば、外国の方ですと、その国の言葉のできる方が、観光の企画や、あるいは運営等もされて、地元になかなかお金が回っていないということは、お伺いしております。そのあたりは、どのようにしたら地域にお金が回るようにしていけるのか。このあたりも、私どもだけではできませんけれども、地域の方と色々知恵を出し合いながらやっていければと思っております。

後は、交通関係です。空港やJRあるいはバス、交通関係のご意見を多くいただいております。こちらについては、簡単ではないといえますか、難しい問題も多々ございますけれども、関係する機関の皆さんと、今後色々知恵を出し合いながら、計画の10年間で、少しでも改善できるように努力していきたいと思っております。

非常に雑駁でございますけれども、事務局からは以上でございます。

**【奥野分科会長】** ありがとうございます。

それでは、「北海道総合開発計画（案）」につきましては、いただいたご意見も踏まえまして、当分科会としてはおおむね妥当といたしたいと思っております。これに留意事項を付すことにいたしたいと思っておりますが、そういうことでよろしいですね。

（「異議なし」の声あり）

**【奥野分科会長】** ありがとうございます。

昨年1月の第15回分科会以来、委員の皆様には貴重なご意見を賜り、「北海道総合開発計画（案）」を取りまとめいただきました。厚く御礼を申し上げます。

今後、本計画を推進するに当たりましても、北海道開発分科会として、その進捗状況を点検し、必要に応じて提言してまいりたいと思っております。委員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご協力をいただきますようによろしくお願い申し上げます。

それでは、予定している議題は以上でございますけれども、事務局に進行をお返りする

前に、岡部北海道局長が到着しておりますので、ご挨拶をいただきたいと思います。

【岡部北海道局長】 北海道局長の岡部でございます。遅れまして、申し訳ございませんでした。

今、奥野分科会長がおまとめいただいたように、昨年1月からでございますけれども、1年を超える期間に渡りまして、熱心なご議論をいただきました。誠にありがとうございます。各委員の皆様をはじめ、奥野分科会長、それから計画部会長をお務めいただいた大内部会長、大変ありがとうございます。改めてこの場をお借りして、お礼を申し上げる次第でございます。

何よりも、本日ご議論いただきました、「答申に当たっての留意事項」でございます。北海道民へのわかりやすい広報活動を積極的に展開すること、人づくりに向けた取組を積極的に進めること。その上で関係者が連携して、実現に向けた取組を進められるよう、数値目標を共有するとともに、点検していくというような、この計画を進める上で非常に重要なポイントを、三つ挙げていただいたと考えております。

このようなことに、十分、心しながら、この計画を、閣議決定にも少し時間がかかりますけれども、その上で実施して、この計画の理念を実現できるように、引き続き頑張ってまいりたいと思います。

分科会の委員の皆様には引き続き、計画を推進するプロセスにおいても、様々な角度からご指導をいただければと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたしたいと思います。

簡単ではございますけれども、お礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

【奥野分科会長】 どうもありがとうございました。それでは、議事は以上とさせていただきます。進行を事務局にお返しいたします。ありがとうございました。

【田尻総務課長】 奥野分科会長、ありがとうございました。本日お配りしました資料につきましては、そのまま机の上に置いていただければ、後日事務局から郵送させていただきます。本日はお忙しい中ご出席賜りまして、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、国土審議会第18回北海道開発分科会を終了いたします。

— 了 —